

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	水道局
-----------	------------

基本計画	柱 暮らしを彩る
	大項目 快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針 生活基盤の充実

担当局 / 総務担当課名	水道局	経営企画課
連絡先	3135	

21年度計画

-1-(3)-

施策名	安全で安定しておいしく飲める水道の整備
------------	----------------------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	安全で安心しておいしく飲める水を供給するため、水源から蛇口に至る一体的な水質管理を行い、安定的に良質な水を確保する水道の構築を進めます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	生活基盤の充実

成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		平成21年度	目標値		
	年度	計画		年度	目標値	
「水道モニター事業」における「水道に関する意識調査結果(安全な水)」	年度	20	計画	70 %	年度	22
「水道水の安全性」について、「満足」と「どちらかといえば満足」と回答した人の割合(平成22年度は、少なくとも前年度実績を上回る目標を設定)	現状値	69.5 %	実績	74.2 %	目標値	75 %
			達成度	106.0 %		
「水道モニター事業」における「水道に関する意識調査結果(おいしい水)」	年度	20	計画	50 %	年度	22
「水道水のおいしさ」について、「満足」と「どちらかといえば満足」と回答した人の割合(平成22年度は、少なくとも前年度実績を上回る目標を設定)	現状値	41.3 %	実績	54.9 %	目標値	55 %
			達成度	109.8 %		
「事故・災害発生時に安定給水が可能な人口(安定給水)」	年度	20	計画	60 万人	年度	24 (H22から変更)
本市における3つの基幹浄水場(穴生浄水場、本城浄水場、井手浦浄水場)を連絡するために必要な送水管を整備することで、事故・災害時にも安定給水が可能となる人口	現状値	60 万人	実績	60 万人	目標値	79万人
			達成度	100.0 %		
「水道モニター事業」...水道事業に関心のある市民を公募(約50名)し、年5回程度の勉強会や浄水場、水源地などの施設見学などを行い、水道事業への理解を深めてもらい、得た知識を地域の人々に伝えてもらうなど、他の利用者へも波及するような仕組みづくりを目指しています。	年度	-	計画	-	年度	-
	現状値	-	実績	-	目標値	-
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月[21年度:執行額]	事業費	4,192,917 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
		うち一般財源	千円	319,275 千円		

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	「水道水の安全性」に対する意識や「おいしさに対する満足感」を判断するための指標として、「水道モニター事業」による意識調査結果を採用しています。この結果によると、「水の安全性」に関しては約74%、「水のおいしさ」に関しては約55%の人が満足しており、いずれも前回の結果を上回っていることから良好です。また、構成事業である「貯水槽水道の管理指導」、「アクアフレッシュ事業」(学校の直結式給水への切替)も当初予定どおりの実績となっています。 また、「水の安定供給」に関しては、構成事業である「配水管更新事業」は、当初の予定を前倒して実施しており、「安定供給」に寄与していると言えます。「水道トライアングル構想」(基幹浄水場間の送水系ループ化)に関しては、現在、建設中の新若戸道路内に送水管を布設していますが、本体工事の完成が平成22年度から平成24年度に変更となったため、本体工事の進捗にあわせて進めています。
今後の局施策の方向性		水道事業者の責務である安全な水を安定的に給水するため、北九州プランに掲げている「安全で安定しておいしく飲める水道の整備」について、個々の事業を計画的に進め、重要な生活基盤である水道の整備に取り組んでいきます。 また、水道局では、「北九州市水道事業基本計画」(平成18~27年度)の基本理念である「お客さまに信頼される水道」を実現するための具体的な事業計画と財政計画である「水道事業中期(後期)経営計画」(平成23~27年度)の策定に取り組み、引き続き、「安全で安定しておいしく飲める水道の整備」を推進します。

[局施策評価] A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

<input type="checkbox"/> 適切な評価 <input type="checkbox"/> 下記のとおり
--

施策名 安全で安定しておいしく飲める水道の整備

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性		
	C時点[21年度:執行額]					21年度	21年度	
水道トライアングル構想(基幹浄水場間の送水システムのループ化)			299,878 千円	8,325 千円				ウ
事業費のうち一般財源								
貯水槽水道の管理指導			34,184 千円	9,525 千円				ウ
事業費のうち一般財源								
アクアフレッシュ事業(学校の直結式給水の推進)			33,589 千円	2,250 千円				ウ
事業費のうち一般財源								
配水管更新事業			3,825,266 千円	299,175 千円				ウ
事業費のうち一般財源								
事業費のうち一般財源								
事業費のうち一般財源								
事業費のうち一般財源								

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	4,192,917 千円	319,275 千円
施策全体の事業費のうち一般財源		

局施策の21年度評価

A

【局施策評価】
 A:大変良い状況にある
 B:概ね良い状況にある
 C:概ね良い状況とまでは言えない
 D:不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	水道局	計画課
連絡先	3062	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	生活基盤の充実
	主要施策	安全で安定しておいしく飲める水道の整備

関連計画	水道事業中期経営計画
事業期間	平成9年度～平成24年度
経費区分	

-1-(3)-

事業名	水道トライアングル構想(基幹浄水場間の送水システムのループ化)					
-----	---------------------------------	--	--	--	--	--

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	漏水事故や自然災害時でも安定した給水を行うため、3つの基幹浄水場(穴生浄水場、本城浄水場、井手浦浄水場)を連絡するために必要な送水管を整備し、浄水場間のバックアップ機能の強化を図ります。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	安全で安定しておいしく飲める水道の整備	成果	事故・災害発生時に安定給水が可能な人口

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由	
		当初計画	新若戸道路水道連絡整備などの実施 60万人 事故・災害時に安定給水可能な人口	79万人				
現状	新若戸道路水道連絡整備などの実施 60万人 事故・災害時に安定給水可能な人口	60万人	60万人	60万人	79万人 予定			
実施状況	成果・活動指標(上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標	
	事故・災害発生時に安定給水が可能な人口(基幹浄水場間の送水管によるバックアップ 分)					計画	60万人	年度
	水道トライアングル構想(穴生浄水場、本城浄水場、井手浦浄水場の3つの基幹浄水場を結び送水系のループ化)を進め、事故発生時にも、浄水場間の送水管のバックアップにより、安定給水が可能となる人口です。					実績	60万人	内容
	バックアップ機能...漏水事故や自然災害時などの非常時に備えて、水道水の応援体制(相互融通)を確立させることで					計画	100.0%	年度
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月[21年度:執行額]					事業費	299,878千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)
						うち一般財源	千円	8,325千円
単年度計画							上記の人件費には、計画課のほか、設計課、西部工事事務所も関わっています。	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度実施に対する結果(指標)については、当初予定どおりです。
------	-------------------------------------	------------------------------------

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	穴生浄水場、本城浄水場、井手浦浄水場の3つの基幹浄水場を送水管でつなぐことにより、浄水場が事故や災害によって供給不能となった場合でも、他の浄水場から応援送水することで、影響範囲を少なくすることができ、約79万人への安定給水に寄与できます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	東西の効率的な水運用が可能となり、東部の安価な水を供給することで費用削減につながります。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	新若戸道路街路事業と同時施工のため、別途施工することは不可能です。事故、災害時の安定給水の実現が一部達成できなくなります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	国の認可を受けて水道事業経営を行っている市水道局が、工事の計画・管理監督を行う必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	新若戸道路水道連絡管は、新若戸道路街路事業と同時施工で、計画どおり整備を進めていきます。また、穴生浄水場～本城浄水場間の連絡管も計画どおり整備を進めていきます。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	水道局	配水管理課
連絡先	3066	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	生活基盤の充実
	主要施策	安全で安定しておいしく飲める水道の整備

関連計画	水道事業中期経営計画
事業期間	平成21年度～平成23年度
経費区分	

-1-(3)-

事業名		貯水槽水道の管理指導	
事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	10m以下の貯水槽については、水道法で法定検査が義務付けられていないため、適正に管理が行われていないものが見受けられます。そこで、検査を受けていない貯水槽の設置者(未受検者)に対し、現地での点検指導(検査の受験指導、簡易検査、改善指導)や文書による啓発などの管理指導を行うことで、貯水槽の管理水準の向上を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	安全で安定しておいしく飲める水道の整備
		成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度 管理指導及び点検調査の実施 1,600件以上 未受検者に対する管理指導件数	平成22年度 1,600件以上	平成23年度 1,600件以上	平成24年度 1,600件以上	平成25年度 1,600件以上	計画変更理由		
		現状	管理指導及び点検調査の実施 1,615件 未受検者に対する管理指導件数	1,600件以上 予定	1,600件以上 予定	1,600件以上 予定	1,600件以上 予定			
	実施状況	成果・活動指標(上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標		
		管理指導件数 1,600件以上/年度					計画	1,600 件	年度	23
		法定検査の未受検者を対象に、3年で市内1巡するように管理指導を実施します。					実績	1,615 件	内容	管理指導件数 1,600件以上/ 年度
							達成度	100.9 %	年度	
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]					事業費	34,184 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)	
							うち一般財源	千円	9,525 千円	
	単年度計画	上記の人件費には、配水管理課のほか、東部、西部工事事務所も関わっています。								

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	当初計画(1,600件)を上回る管理指導(1,615件)を実施し、安全な水の供給を図りました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	管理指導を実施したことにより、貯水槽の検査受検率も向上しており、安全でおいしい水の供給に寄与しています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	管理指導後のフォローアップ調査・指導を実施し、より高い効果を目指します。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	お客さまに安全な水を供給するため、継続的に実施する必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。		4	お客さまへ安全な水を供給するため、貯水槽水道への水道水の供給者としての立場から、関与する必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ウ	お客さまに安全な水を供給するため、計画どおり実施していく必要があります。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	水道局	配水管理課
連絡先	3066	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	生活基盤の充実
	主要施策	安全で安定しておいしく飲める水道の整備

関連計画	水道事業中期経営計画
事業期間	平成20年度～平成22年度
経費区分	

-1-(3)-

事業名	アクアフレッシュ事業(学校の直結式給水の推進)
-----	-------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	現在、多くの市立小中学校では、水道水を一旦、受水槽へ貯めてから給水する貯水槽式給水を行っています。子どもたちがより新鮮な水道水を蛇口から直接飲めるように、水槽式給水から直結式給水への切替を進めます(工事費の一部を水道局が負担するものです)。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	安全で安定しておいしく飲める水道の整備	成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		直結式給水への切替件数(学校数) 60校 (20校/年度×3年度)						計画	40校	年度	22
		市立の小中学校について、水槽式給水方式から直結式給水方式へ切替える件数 平成23年度以降は、今後、教育委員会と実施する学校などについて協議のうえ、実施します。						実績	41校	内容	直結式給水への切替件数60校(20校/年度×3年度)
								達成度	102.5%	年度	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	33,589千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	千円	2,250千円		
単年度計画	(この欄は空欄で構いません)										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 当初計画(小学校:13校、中学校:7校)どおり実施しました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	直結式給水への切替を実施した学校については、より新鮮な水の供給が可能となりました。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	事業実施前にモデル校で使用水量の調査を行い、過剰な設備とならないように基準を見直し、コスト縮減を図りました。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	大規模改修等に合わせ、計画的・継続的に行う必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	学校の直結化を促進し、子どもたちが直接蛇口から水を飲む文化を育むため、水道水を供給する水道事業者としての立場から関与する必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	既存口径で直結式給水への切替が可能な学校については、教育委員会と協議のうえ、現状のまま進めることが望ましいです。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	水道局	計画課
連絡先	3062	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	快適に暮らせる身近な生活空間づくり
	取組みの方針	生活基盤の充実
	主要施策	安全で安定しておいしく飲める水道の整備

関連計画	第3期配水管更新計画
事業期間	平成20年度～平成24年度
経費区分	

-1-(3)-

事業名	配水管更新事業
-----	---------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	老朽化した配水管を計画的に更新することにより、漏水、赤水、不出水の解消や管破損事故を防止し、安全で安定的な給水を確保します。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	安全で安定しておいしく飲める水道の整備	成果		

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		当初計画	老朽化した配水管の更新 90km(累計) (45km/年度) 配水管更新延長	135km(累計) (45km/年度)	180km(累計) (45km/年度)	225km(累計) (45km/年度)		-	-
現状	老朽化した配水管の更新 107km(累計) (65km/年度) 配水管更新延長	162km(累計) (55km/年度) 予定	212km(累計) (50km/年度) 予定	-	1年前倒してほぼ完了、 23年度に目標達成見込み	-			
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標		
	配水管更新延長 225km (45km/年度×5年度)					計画	90 km	年度	24
	第3期配水管更新計画(平成20～24年度)において、45km/年度、225kmの老朽化した配水管の更新を行います。この第3期更新計画は、1年前倒してほぼ完了し、平成23年度には目標達成を見込んでいます。					実績	107 km	内容	配水管更新延長 225km(45km/年度×5年度)
						達成度	118.9 %	年度	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]					事業費	3,825,266 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)	
						うち一般財源	千円	299,175 千円	
単年度計画						上記の人件費には、計画課のほか、設計課、東部、西部工事事務所も関わっています。			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	老朽化した配水管における漏水事故は、市民生活に直接かつ広範囲に多大な影響を与えます。そのため、配水管更新を可能な限り前倒して実施しました。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	計画を上回る配水管更新を行い、安全、安定給水に寄与しました。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	現在も行ってはいますが、適正口径への見直しや他工事との共同施工をさらに検討し、引き続きコスト削減を進めます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	今後、さらに更新需要の増大が見込まれており、安定給水確保のため、計画的な更新が不可欠です。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4	4	国の認可を受けて水道事業経営を行っている市水道局が、工事の計画・管理監督を行う必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	当初計画(第3期配水管更新計画、平成20～24年度)は、少しでも早く完了させ、安定給水の観点からさらなるスピードアップをしていく必要があります。